

旧耐震基準の木造住宅の除却における容易な耐震診断調査票

調査日時: \_\_\_\_\_

調査者氏名 \_\_\_\_\_

I) 建築物の概要

1. 建築物の所有者: \_\_\_\_\_

2. 建築物所在地: 弘前市大字 \_\_\_\_\_

3. 階数: \_\_\_\_\_

II) 前提条件の確認(いずれも必須)

チェック欄

木造住宅である	
昭和56年5月31日以前に新築の工事に着手した	

※この診断を行うためには、両方該当する必要があります。

III) 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目

(1以上ある場合は倒壊の危険性があると判断)

建物全体	全体又は一部に崩壊がある	
	全体又は一部に傾斜や変形がある	
地盤・基礎	地盤沈下が生じている	
	基礎がコンクリート以外(玉石、石積み、ブロック等)である	
	基礎がコンクリートであり、ひび割れや欠損が見られる	
老朽・腐朽	柱、梁、壁、土台等の構造部に白蟻の被害がある	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に腐朽が見られる	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に損傷や欠損が見られる	

IV) 壁の割合 ※III) の項目で、1つ以上の該当があれば、以下記入不要となります。

一見して倒壊の危険性があると判断できない場合でも、壁の割合が0.8未満である場合は、倒壊の危険性があると判断できるものとする。

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)壁の割合
方向	壁の長さ(m)	建面(m <sup>2</sup> )	イ/ロ	必要値	ハ/ニ
X					
Y					

IV) 壁の割合 記入用紙

壁の長さの計測

The image shows a large grid for measuring wall length. The grid is composed of solid lines forming a 15x15 square pattern. Overlaid on this grid are several vertical dashed lines, with three prominent ones on the left side. In the bottom-left corner, there is a coordinate system with a vertical arrow pointing up labeled 'Y方向' and a horizontal arrow pointing right labeled 'X方向'. A double-headed arrow between the Y and X axes is labeled '1m', indicating the scale of the grid.

(イ) 壁の長さの合計

① X (横) 方向

①  m

② Y (縦) 方向

②  m

①②のうち小さいほうを記入してください。

イ  m

(ロ) 面積

ロ  m<sup>2</sup>

(ハ) 単位面積あたりの壁の長さ

イ  ÷ ロ  = ハ

(ニ) 必要な壁の長さ

ニ  m

下の表から該当するものを選んで記入してください。

階数	平家	2階建
屋根の種類		
軽い屋根 (鉄板葺・石綿板葺・スレート葺等)	0.20	0.52
重い屋根 (かや葺・瓦葺等)	0.27	0.59

(ホ) 壁の割合

ハ  ÷ ニ  = ホ